

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：32670

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23310187

研究課題名(和文) 戦前・戦時期日本における中東研究の現代的展開 「回教・猶太問題」からの視座

研究課題名(英文) A Recent Development Inherited from Middle Eastern Studies before and during World War Two: A Perspective from "Muslim and Jewish Question" in Japan

研究代表者

臼杵 陽 (Usuki, Akira)

日本女子大学・文学部・教授

研究者番号：40203525

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,800,000円、(間接経費) 4,140,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、戦前・戦時期の日本の戦略研究としての回教・猶太研究を積極的に再評価し、戦後展開した基礎的な地域研究としての中東イスラーム地域研究との継続性に力点を置いて検討した。そのような観点から、当該時期の研究、とりわけ雑誌『猶太研究』に関するデータベースを構築しつつ、戦後のイスラーム研究およびユダヤ研究に関する基礎研究と政策研究のバランスの上に立った、日本から発信できる新たな中東イスラーム地域研究のあるべき方向性を示した。

研究成果の概要(英文)：This study reevaluates Muslim and Jewish studies before and during World War Two as strategic studies and explores the post-war time development of Middle Eastern and Islamic area studies inherited from those of the pre-war time. From this viewpoint, we constructed database on the above-mentioned studies, especially the Journal of Jewish studies and shows a new direction of Middle Eastern and Islamic studies from Japanese perspective in order to keep balance between policy-oriented and basic studies.

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：中東研究 イスラーム地域研究 ユダヤ研究 回教・猶太研究 戦前・戦時期日本 大川周明 東亜経済調査会 大日本回教協会

1. 研究開始当初の背景

本研究は、科学研究費補助金基盤研究(B)(1)「日本・中東イスラーム関係の再構築 中東イスラーム地域研究の新地平」(平成14年~16年、研究代表者 臼杵陽)基盤研究A(1)「日本・イスラーム関係のデータベース構築 戦前期回教研究から中東イスラーム地域研究への展開」(平成17年~19年、研究代表者 臼杵陽)さらに科学研究費補助金基盤研究(B)「第二次世界大戦期の日本及び枢軸国の対中東・イスラーム政策の比較研究」(平成20年~22年、研究代表者 臼杵陽)を行なった上で、同じ枢軸国でありながら、日本はドイツやイタリアとは違った対イスラーム・対ユダヤ人政策をもち、両国とは異なって「人種主義」を伴っていなかった。したがって、日本において「回教・猶太問題」と公的に呼ばれているような事態に対して、どのように対応したのかを改めて確認する必要がある。すなわち、本研究はとりわけ「猶太問題」に若干の力点を置きつつも、戦前期あるいは戦時期の日本にとってこの問題がどのように受け止められたかを検討する必要があると痛感するに至った。とりわけ、戦前・戦時期の回教研究を考える上で、キーパーソンといってもいい東亜経済調査局を主宰した大川周明にとりわけ焦点を当てることにした次第である。さらに、戦前・戦中の研究が戦後の日本の中東イスラーム研究にとってどんな意味を持ったのかを改めて検討する必要があるのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、戦前日本の戦略研究としての回教・猶太研究を積極的に再評価し、戦後展開した基礎的な地域研究としての中東イスラーム地域研究との継続性に力点を置いて検討する。

そのような観点から新たにデータベースを構築しつつ、基礎研究と政策研究のバランスの上に立った「21世紀型中東イスラーム地域研究」のあるべき姿を提言する。

3. 研究の方法

未刊史資料を含む情報を電子媒体で整理・分析、大日本帝国領に亡命していたムスリムによって刊行されていたタタール語等の雑誌・新聞類あるいは戦前期アフガニスタンに関する資料も調査・収集の対象となる。さらに、戦前の日本で回教世界に強い関心を有していた仏教などの宗教界の関係諸団体が発行していた新聞・雑誌などの調査も行なう。

4. 研究成果

第2年度において、『日本中東学会年報(Annals of Japan Association for Middle

East Studies)』第28巻第2号、2013年3月刊、に特集「日本の中東研究における新たな潮流 その起源を探る(New Trends in Japan's Study of the Middle East: Searching for Roots)」を組んだ。分担者の加藤博が「序論」で特集の意図を説明し、同じく分担者の三沢伸生と連携研究者の大澤広嗣が「戦前・戦中期における日本人のイスラーム認識 仏教系日刊新聞『中外日報』掲載イスラーム関係記事(1937~45年)」という史料紹介を行い、分担者の店田廣文が「戦中期日本における回教研究機関 『大日本回教協会寄託資料』の検討」を、さらに研究代表者の臼杵陽が「ある日本人アジア主義者のイスラーム観 大川周明の場合」を寄稿した。

また、国際ワークショップ『戦前・戦時期日本における中東研究の現代的展開 - 回教・猶太問題』からの視座』を2013年3月17日に熱海の東洋大学の施設において開催した。その際、トルコから招聘したA.Merthan DUNDAR(アンカラ大学准教授)が「日本・トルコ関係史」と題する講演を行うとともに、連携協力者の安藤潤一郎(東海大学)が「日中戦争期の中国大陸における日本の回教工作と回民社会 - 華北を中心に」、同じく連携研究者の重親知佐子(兵庫大学)が「戦前日本のイスラームをめぐる思想と政策 - 軍部と日本国教大道社を中心に」の報告を行った。

第3年度においては、国際ワークショップ「オスロ合意再考 パレスチナとイスラエルに与えた影響と代理案」を2013年10月12日(土)と13日(日)の両日に東京大学東洋文化研究所で開催した。

また、オスロ合意20年国際ワークショップII「オスロ合意の代案とは何か パレスチナ/イスラエルをめぐる一国家・二国家論争」を10月14日にも開催した。その際、海外からの参加者のうちライラ・ファルサハ氏(マサチューセッツ大学准教授)を本科研によって招聘した。

日本の回教研究に関しては、2014年10月19日に山形県酒田市において開催された大川周明博士顕彰会主催碑前祭に科研分担者が参加して、顕彰会会員および大川塾第二期の終了生である山本哲朗氏および加藤健四郎氏とともに懇話会をもって、意見交換を行った。また、大川周明研究に関連して、大川の評伝を執筆した際、本科研関係者も全面的に協力したアメリカ人ジャーナリストのエリック・ジャッフェ氏が以下の著作を刊行したことも明記しておきたい。Eric Jaffe, A Curious Madness: An American Combat Psychiatrist, a Japanese War Crimes Suspect, and an Unsolved Mystery from World War II, New York: Scribner, 2014/1/14.

データベース化に関しては、パレスチナ民族刺繍のモチーフを実際に250種類にわたって刺繍して、さらにその地域的、歴史的特徴について解説を加えた研究用データベース

である CD-ROM 版「パレスチナ刺繍 モチーフが語る小宇宙」300 部を作成し、研究者を含めて関係者に研究用として配布した。

また、アジア・太平洋戦争期に刊行されていた雑誌『猶太研究』全巻のスキャン作業を終了し、戦時期日本の猶太研究データベースの一環として近々データベースとして公表する予定である。

さらに、エジプト革命関係のアラビア語刊行物 330 冊のデータベースを作成したが、目下、公開のための準備を鋭意行っている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 2 件)

臼杵 陽、青年期・大川周明のスーフィズム研究 論文「神秘的マホメット教」をめぐって、日本女子大学文学部紀要、査読無、63、2013

臼杵 陽、 解題 J・ハーフ著『ナチのブ口パガンダとアラブ世界』を巡る論争、岩波書店、査読無、2013

臼杵 陽、新たな時代におけるイスラエルと日本、岩波書店編集部編『これからどうする』岩波書店、査読無、2013

臼杵 陽、第二次世界大戦期ドイツにおけるパレスチナ人指導者 ハーτζ・アミン・アル・フサイニーとナチスの関係をめぐる最近の研究動向、『経済志林』第 79 巻第 4 号、査読無、2012、113 - 140

臼杵 陽、汎イスラーム主義と汎アラブ主義の新段階 - 1931 年エルサレム・汎イスラーム会議からの考察、アジア主義は何を語るのか、ミネルヴァ書房、査読無、2013、274 - 291

臼杵 陽、第二次世界大戦期ドイツにおけるパレスチナ人指導者 - ハーτζ・アミン・アル・フサイニーとナチスの関係をめぐる最近の研究動向、経済志林、査読無、第 79 巻 4 号、2012、113 - 140

臼杵 陽、アラブ革命の行方、ピープルズ・プラン、査読無、57 号、2012、44 - 51

臼杵 陽、アラブ革命とこれからの世界の行方(特集日本の未来・世界の未来)、学際、査読無、24 号、2012、68 - 75

臼杵 陽、Enduring States and Challenges from Within and Without: The Case of the Middle East、Enduring States: In the Face of Challenges from Within and Without (Kyoto University Press)、査読無、2011、27-42

臼杵 陽、アラブ革命は中東に何をもたらすか、世界、査読無、819 号、2011、228-234

臼杵 陽、日本におけるシオニズムへの関心の端緒 日露戦争から大戦間期までを中心に、シオニズムの解剖 現代ユダヤ世界におけるディアスポラとイスラエルの相克(人文書院) 査読無、2011 年、325-350

臼杵 陽、 解題 雑誌『新亜細亜』と大川周明、『新亜細亜』解題・総目次・索引(不二出版) 査読無、2011、5-17

加藤 博、“GIS as a Tool for Researching the Socioeconomic History of Modern Egypt” (with Hiroomi Tsumura and Erina Iwasaki), Journal of Asian Network for GIS-based Studies (JANGIS), Vol. 1, November 2013, pp.22-32 (査読有)

加藤 博、「トルコにおける国民国家形成と人口センサス事業」(穂山祐子と共著)『人文・自然研究』第 8 号、一橋大学、2014、103 - 124 (査読有)

加藤 博、「ナイルのほほえみと叫び」『季刊民族学』144 号、2013、20 - 25 (査読無)

加藤 博、「エジプト革命のディレンマ - なぜ若者は疎外され、イスラム政党は排除されたのか」『世界』(岩崎えり奈と共著)855 号、2014、232 - 241 (査読無)

加藤 博、エジプトの村は「共同体」か、アジア・中東 共同体・環境・現代の貧困、査読無、2012、97 - 122

加藤 博、空間編成からみたアンマン都市社会 - 2008 年アンマン世帯調査報告、Global COE Hi-Stat Discussion Paper Series、査読無、272 号、2012、1 - 24

Hirosi Kato, The Monetary History of the

East Mediterranean in the Middle Ages as Judged from Imitated Coins, Mediterranean World, 査読無、21号、2012、3 - 20

加藤 博、「革命」の前後でエジプト国民の政治意識はどう変化したか、東洋文化研究所紀要、査読無、160、2011、259-322

21 加藤 博、エジプト社会の地殻変動 - 政治意識調査から、現代思想、査読無、39 - 4、2011、124 - 129

22 加藤 博、アラブは「近代」を克服できるか、世界、査読無、6月号、2011、222 - 230

23 長澤 榮治、エジプトに彷徨う「ナセルの亡霊」 7月3日が突きつけた課、世界、査読無、849巻、2013、243 - 247

24 店田 廣文、世界と日本のムスリム人口、人間科学研究、査読無、26巻1号、2013、85 - 106

25 店田 廣文、エジプトの19世紀人口推計、永遠に生きる 吉村作治先生古希記念論文集、査読無、2013、331 - 341

26 Hirofumi Tanada, Islamic Research Institutes in Wartime Japan: Introductory Investigation of the "Deposited Materials by the Dai-Nippon Kaikyo Kyokai (Groator Japan Muslim League)", 日本中東学会年報、査読無、28巻2号、2012、85 - 106

27 長澤 榮治、エジプト革命の課題 アラブ革命の展開の中で、現代思想、査読無、47 - 17、2013、190 - 195

28 長澤 榮治、地域研究における私的なものと公的なもの - 中東研究の場合 - 、学術の動向、査読無、18 - 7、2013、67 - 71

29 長澤 榮治、アラブ革命を見る目 - 政変後のエジプトを考える、市民の意見、査読無、140、2013、24 - 25

30 長澤 榮治、地域としての中東とシナリオ・プランニング、『グローバル戦略課題としての中東 2030年の見通しと対応』日本国際問題研究所、査読無、2014、1-15

31 長澤 榮治、門戸解放期エジプトの国家と

社会、持続可能な福祉社会へ：公共性の視座から 第四巻アジア・中東、査読無、2012、12 - 20

32 長澤 榮治、アラブ革命の構想力 - グローバル化と社会運動、歴史学研究、査読無、898号、2012、12 - 20

33 長澤 榮治、エジプト1月25日革命を考える 「腐敗」をキーワードにして、中東研究、査読無、511号、2011、39-47

34 長澤 榮治、二つのエジプト革命、『国際問題』、査読無、10月号、2011、19-28

35 長澤 榮治、エジプト1月25日革命は何を目指すか、水谷周編『アラブ民衆革命を考える』国書刊行会、査読無、2011、98-135

36 三沢 伸生、「戦間期のイスタンブルにおける日本の経済活動(6)：コンスタンチノープル日本商品館(イスタンブル日本商品館)に関する研究」、『アジア文化研究所研究年報』(東洋大学)48号、査読無、2014、129-148

37 三沢 伸生、「1950年代における在日タタール人に関する史料：データベース化すべき私文書史料の一例」、『アジア文化研究所研究年報』(東洋大学)48号、査読無、2014、219-224

38 三沢 伸生、日本におけるアジア主義とイスラーム主義の交錯、アジア主義は何を語るのか、査読無、2013、497 - 516

39 三沢 伸生、トルコ・イスタンブルにおける合気道の伝播と現状 - その覚書、アジア文化研究所研究年報(東洋大学) 査読無、47巻、2013、261 - 268

40 三沢 伸生(石井隆憲と共著)、近代スポーツ・メディアとアジア民族に関する覚書、『アジア文化研究所研究年報』、査読無、46、2012、355-358

41 三沢 伸生(大澤広嗣と共著)、在日タタール人と日本の学界との接点、『アジア文化研究所研究年報』、査読無、46、2012、327-354

42 Nobuo Misawa, The First Japanese who resided in the Ottoman Empire、Mediterranean World、査読無、XXI、2012

〔学会発表〕(計9件)

店田 廣文 (岡井宏文と共同)、
Development of Muslim Communities and
Perception of Islam in Japan、
International Workshop: "Life Styles of
Muslim Minorities in Asia: Survey Results
in Comparative Perspective"、2012年1月
7日、早稲田大学

加藤 博、「世界史の中のイスラーム」日
韓歴史家会議 ソウル 2013年10月26日

加藤 博、「GIS as a Tool of Linking
Different Socioeconomic Spaces: Study of
Urban-Rural Migration to Cairo"(with
Erina Iwasaki) "The Relationship between
Groundwater Resources, Land use, and
Demographic Characteristics, Using Remote
Sensing and GIS Techniques, Dakhla Oasis,
Egypt"(with S.F. Elbeih, E. Iwasaki, E.,
Sefelnasr, A.A. Shalaby, and E.A.
Zaghloul)The 2nd ANGIS (Asian Network for
GIS-based Studies) Meeting 2013, Kyoto
University, December 9, 2013

加藤 博、「The Unifying of Historical
Data to Geographical Information by GIS
for the Study on the Socio-economic
History of Egypt" 1st Meeting of the
Project at JaCMES "Human Mobility and
Multi-ethnic Coexistence in Middle
Eastern Urban Societies", February 25,
Beirut.

加藤 博、経済のグローバル化とエジプト
繊維産業、アジア政経学会 2011年度全国大
会、2011年10月16日、同志社大学新町キャン
パス

長澤 榮治、アラブ革命と中東の今後 - エ
ジプトを中心に、山梨近代史の会、2014年
1月17日、甲府市 山梨県立大学

三沢 伸生、「極東・日本のタタール人 :
20世紀の国際情勢の中で」、「シンポジウム・

タタールの過去・現在、そして未来へ」、2013
年5月19日、トルコ大使館文化部ユヌス・
エムレ トルコ文化センター

三沢 伸生、内藤智秀とイスラーム、日本
中東学会公開講演会「庄内からイスラームを
考える」、2011年11月12日、山形県酒田市
総合文化センター

三沢 伸生、アジア主義とイスラーム主義
の交錯、国際シンポジウム「戦前日本の対回
教圏政策とトルコ」、2012年1月28日、東
京外国語大学

〔図書〕(計12件)

臼杵 陽、講談社、世界史の中のパレスチ
ナ問題、2013、432

臼杵 陽、青土社、アラブ革命の衝撃 -
世界でいま何が起きているのか、2011、251

臼杵 陽監修(赤尾光春・早尾貴紀編)、
人文書院、シオニズムの解剖 現代ユダヤ世
界におけるディアスポラとイスラエルの相
克、2011、358

加藤 博、山川出版社、『ムハンマド・ア
リー 近代エジプトを築いた開明的君主』、
世界史リブレット人067、2013、88頁

加藤 博、東洋経済新報社、『現代アラブ
社会論 - 「アラブの春」とエジプト革命 - 』
(岩崎えり奈と共著) 2013、320

店田 廣文、早稲田人間科学学術院アジア
社会論研究室、外国人に関する意識調査・射
水市報告書、2012、114

店田 廣文(岡井宏文と共著)、早稲田大
学人間科学学術院、全国モスク代表者会議
-第3回会議の記録 2011年3月6日、2011、
67

長澤 榮治、平凡社、アラブ革命の遺産 -
エジプトのユダヤ系マルクス主義者とシオ
ニズム、2012、606

長澤 榮治、平凡社、エジプト革命 アラ
ブ世界変動の行方、2012、262

Nobuo MISAWA(ed.)、Toyo University、

Album of Tatar Exiles in Interwar Japan
ACRI, 2014、ii+46

三沢 伸生 (編)、東洋大学、『イスタンブ
ル日本商品館関係資料集：戦間期のトルコに
おける日本の経済活動(1)』、2014、50

Nobuo MISAWA (ed.)、Tokyo: Asian
Cultures Research Institute, Toyo
University、Tatar Exiles and Japan、2012、
IV+48 p.

6 . 研究組織

(1)研究代表者

臼杵 陽 (Usuki, Akira)

日本女子大学・文学部・教授

研究者番号：4 0 2 0 3 5 2 5

(2)研究分担者

加藤 博 (Kato, Hiroshi)

一橋大学・経済学研究科・特任教授

研究者番号：1 0 1 3 4 6 3 6

店田 廣文 (Tanada, Hirofumi)

早稲田大学・人間科学学術院・教授

研究者番号：2 0 1 9 7 5 0 2

長澤 栄治 (Nagasawa, Eiji)

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：0 0 2 7 2 4 9 3

三沢 伸生 (Misawa, Nobuo)

東洋大学・社会学部・教授

研究者番号：8 0 3 2 8 6 4 0

〔その他〕

ホームページ等

「大川周明とイスラム」
(<http://www2.econ.hit-u.ac.jp/~areastd/okawa/>)